

Information & HIROBA

■各地の総会レポート

7月4日(火) 千葉県本部

11支部の代表や事務局担当者が例年より多く参加。近年、県内の入賞者が増加してい



る、「はぎきキャンペーン」や「作文コンクール」に、引き続き取り組む方針が話し合われました。また、中央本部の小林和明理事が講演。中学1年生のときに「小さな親切」実行章を受けて以来、思いやりの心を持つことを大切にしており、社会人となつてからは「人を大切にする経営」を実践。現在の会社でスタッフの退職者がゼロとなった経緯などを語りました。

7月7日(金) 千葉県 旭市支部

市内の全小中学校があいさつ運動「みんなつながろトモダチ作戦」に取り組むなど、学校との連携が深い旭市支部。会場には、各校の活動の写真が掲示されており、活動の成果が資料だけでなく、目で見てわかるよう工夫されていました。総会後の講演では、中央本部の山橋専務理事が「千葉県内の親切運動の成果」と題し、支部だけでなく、企業や学校の実践活動も盛んな千葉県の運動の特長などを語りました。



■拾ったごみはトラック7台分!

5月28日(日)、埼玉県川口支部が38回目となるクリーン大作戦を実施しました。出発式では、永年の協力団体へ感謝状が贈呈され、いざ出発。町内会や小中学校の児童生徒など、参加者約3,000人が一丸となつて集めたごみは、なんとトラック7台分にも! 今年も警察官が清掃に参加。事故防止のため、パトカーやオートバイがバトロールをするなど安全・安心にも配慮したクリーン大作戦となりました。



■いつも遊んでくれてありがとう

園児たちから、日頃の感謝の気持ちを込めた実行章が手渡されたのは、伊藤トモ子さんと亀沢孝子さんの二人。

伊藤さんは、大湯保育園(秋田県鹿角市)の「ふれあいタイム」永年参加し、園児たち



といっしょに遊んだり、近隣を散策したりして交流をしています。亀沢さんは、同園の事務職員として、「ふれあいタイム」に参加する方の送迎や調整などを担当。かわいい園児たちからの「小さな親切」実行章は、お二人の宝物となつたでしょう。

■親切のさらなる飛躍を願って

前号(春号・No.506)で速報をお伝えしましたが、「小さな親切」実行章580万人目の受章者は、全校をあげて地域の公共施設を清掃している、宮古市立新里中学校に決定。表彰は6月の岩手県本部の総会で行われ、同校の鹿崎良宏校長に、賞状と記念品として学名校名入りの大漁旗が贈られました。これからも子どもたちの親切な話題が、大量(大漁?)に届きま



■本を贈って40年 目標数を上方修正

昨年の秋号(504号)でお伝えした、40年にわたり、400校以上の学校に本を贈る

「おとなの作文」

男のひととき

栃木県 湯浅末吉

五年程前であつたか、或る朝、妻と二人で食事をしていた。食卓に真っ白な白菜が一つ置かれていた。珍しいことであり、何の意味か不思議に思った。良く見ると、そばにマッチ棒1センチくらいの真っ白い幼虫がいた。

私はご飯を口に入れながら、じっと見てみると、わずかに動いた。

（アレッ、生きている。）

見ると、極小の足が十本くらいついている。なんと可愛らしい白ツ子だろう。妻はこれが、この白菜の中にいたのだという。白菜の芯の方まで食い入っていたのだと。憎らしい害虫なのだ。これは、モンシロチョウの幼虫なのだという。

すると、突然妻がこの幼虫に少し塩をのせたのである。「ナメクジは塩をかけると溶けるんだよね」と。だからこの

白ツ子も溶けてしまうだろうという仕打ちなのだ。私も「うん」と頷いた。白ツ子が、少し動いた。重いのか、熱いのか、火傷か知らないが、びっくりしたのだ。

食事が終わって、妻が席を外しほかの部屋へ行った際に、私は素早く白ツ子を塩ごと口に含んで、庭の畑のブロッコリーの上に吐き出した。すると虫は、すぐ地面に落ち、葉の陰で分からなくなってしまった。

私がすぐ食卓に戻ると、妻が「あの虫はどうしたの」と聞く。私が庭に捨てたというと、妻は突然、「そんなに極楽に行きたいのか!」と怒鳴った。嘩然とした。「なんということをするの! 害虫となるものを……。」

「虫も殺さぬ」とはどんなものか。人は草一本、虫一匹作ることばできない。ああ、命なりけり。



活動を続けている広島県三原市の会員、葉本光明さん。当時は「500校を目指します」とおっしゃっていましたが、今年6月末で累計473校への図書寄贈を終え、目標数を600校へ上方修正。今後は広島県だけでなく、近隣の山口県の学校へも寄贈を予定しているとのこと。寄贈図書の総額は、なんと1億円近くになるそうですよ!

■災害見舞金のご報告

昨年4月の熊

本地震発生を受け、地域組織や会員の皆様から募集し、熊本・

大分両県本部に送金した熊本地震災害見舞金の使用用途が決定しました。熊本県本部では、被災地で本当に必要とされているものをヒアリングし、室内用歩行車22台を購入し、病院



【購入】室内用歩行車（スリムウォーク）とプレート

等の施設へ寄贈しました。ご協力いただいた地域組織・会員の皆様に御礼申し上げます。

■読売新聞社の活動に

「小さな親切」もひと役

読売新聞社では、平成25年より全国の学童保育施設に、図書を寄贈する活動を行っています。

1ヶ所あたり約40種類の本が贈られますが、今年度の寄贈図書に、はがきキャンペーン応募作品を収録した「胸が熱くなるほどいい話」を加えていただきました。寄贈図書には統一のシールが貼られ、この夏約2,000ヶ所の施設に贈られ、子どもたちの豊かな心づくりに役立てられます。



【お詫び】

前号（春号・No.506）16頁の団体会員一覧の都道府県名に誤りがありました。

8行目 誤【宮崎県】→正【宮城県】

関係者の皆様にご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。謹んでお詫び申し上げます。

【寄附者ご芳名】（敬称省略・順不同）

和歌山県 阪口繁昭／大分県 山本金次郎／
東京都 小林和明／広島県 葉本光明

【道府県本部新代表就任】（6月末現在）

北海道本部 森 昌弘様

（北海道電力株取締役常務執行役員）
岩手県本部 田口幸雄様

（岩手銀行取締役頭取）
徳島県本部 岡田好史様

（阿波銀行取締役会長）